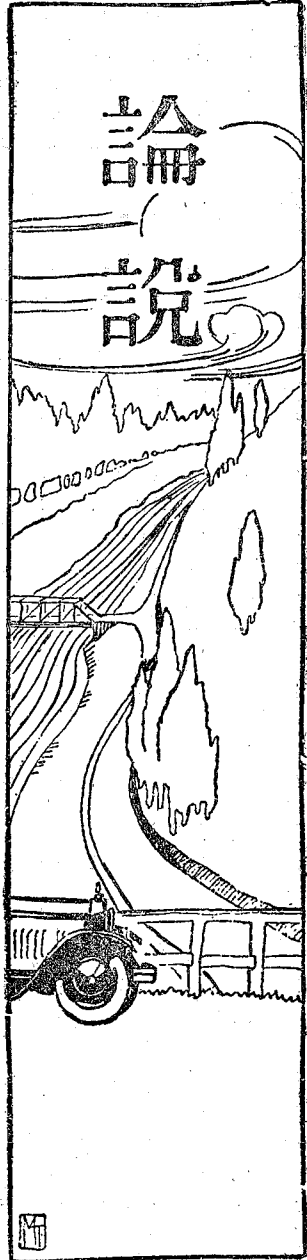


論
說



昭和四年を迎ふ



道路改良會會長 水野鍊太郎

今上陛下御一代の御盛儀たる即位の御式も昨年十一月全國を擧げて國民歡呼の裡に目出度く終

了せられたることは、實に慶祝に堪へないことである。今回の御大典に當り、國民擧つて皇室の御繁榮と寶祚の無窮を奉祝し奉りたることは、我國體精華の發揚であつて、誠に有難き極みである。

此の御大典に參列したる人々は、其の森嚴崇高なる光景に感激し、唯々感激に咽ぶのみであつた。此の御式に參列の光榮に浴したる臣民は無慮三千人、又各國よりは特に使節として、三十有餘國の世界列國の代表者が、此の御大典に參列した。紫宸殿の殿上殿下人を以て埋り、其の狹隘を告ぐる程であつた。陛下が高御座に臨御ましまし、朗々たる御聲を以て勅語を賜りたる時の如き、滿庭水を打ちたる如く、莊重崇高、森嚴靜肅、唯だ參列者の感泣に咽ぶ音を聞くのみであり、其の光景は口にも筆にも述べられ得ないのである。

此の盛儀を拜するに付ても、吾々は我帝國の過去を追憶せざるを得ない。本年は昭和戊辰の年である。戊辰と言へば、明治の戊辰を憶ひ出さざるを得ない。明治戊辰の年は、明治大帝が位に即かせ給ひたる年である。當時は恰も幕末に際し、實に内外多事の時であつた。封建制度を廢し、諸政を一新したのも、此の年である。所謂明治の維新なるものは、明治戊辰の年に始まつたのである。更に其の前後の狀勢を顧れば、内政は紛糾し、或は開國論を唱ふる者あり、或は攘夷論を叫ぶ者あり、或は佐幕論とか勤王論とかを主張し、互に派を立て、黨を爲し、愛國の志士は隨所に起ち、之が爲には、或は生命を失ひたる者もあり、或は刑辟に觸るゝ者もあり、衆議紛々歸する所を知らなかつた情勢であつた。之に加ふるに、英米佛露の列國は、開港貿易を迫れるあり、或る藩の如きは、是等の列國と兵火を交へたる事

實すらあつた。内外多事といふのは實に此の時を言ふのである。此の際に當り若し一步を誤れば我帝國の運命が如何に立ち至つたかは計り知るべからざる情勢であつた。今日之を追想するだに身の毛のよだつ感がある。幸ひに我帝國に於ては皇統連綿たる皇室があり、此の皇室を中心として國民之に向つて心を一にし報効の誠を致したのである。當時衆議紛々たるも、其の歸趨する所は皇室に向つて忠誠を致さんが爲であつた。開國論と言ひ攘夷論と言ひ勤王論と言ひ佐幕論と言ひ、其の主義主張は異なる所あるが、歸する所は國家の爲皇室の爲に相争ふのである。故に紛々たる論議も終局皇室中心の下に融和結合して明治の維新を大成したのである。

此の多事多端の明治戊辰の年に明治大帝は位に即かせられ、直ちに維新の宏謨を定めさせられ、萬機公論に決し、舊來の陋習を打破し、智識を海外に求め、皇基を確立するの大方策を國民に宣し、賜つた。此の宏謨の下に在朝の臣僚は勿論、國民心を一にして奮闘努力したのである。其の結果が今日我帝國の隆盛を見るに至つたのである。

明治戊辰の年と言へば帝國の人口僅かに三千萬に過ぎず、其の領土は舊大八洲の地域に止り、東洋に僻在する一孤島であつて世界に認識せられざる小邦であつた。此の一小孤島が六十一年を経過したる昭和戊辰の年に於ては世界に於ける五大國の一となり、英米佛獨と相對して列強の一に伍するに至つた。教育の點に於ても、産業の點に於ても、軍事の點に於ても、一小邦たる我帝國が六十年間に斯かる大進歩をなしたといふことは世界の見て以て奇蹟とする所である。而して此の奇蹟を見

出したのは上に英邁なる聖天子あり、下に忠誠なる國民あり、君民一致協力して事に當つた結果である。之を思へば昭和の御代に生を享くる吾々は更に奮勵努力して、益々我國體の精華を發輝し國運の隆昌を期せなければならぬことを痛感するのである。

殊に交通の狀況に付ては六十年前と今日とを比較するに實に雲泥の差があるのである。六十年前の明治初年に於ては鐵道なるものは一線もなく、交通は徒歩か馬脊か若くは駕籠に依るの外はなかつた。明治大帝が京都より東京に行幸遊ばされた時の如きも、東海道を十數日間費して漸く東京に御入城になつたのである。又明治十四年東北行幸の時の如き今日では想像し得られざる御辛艱を遊ばされて御巡視に相成つたといふことは、之を追想するだに畏き極みである。當時の道路は幅員も狭まぐ勾配も急であつて所謂險路峻坂であつた。我國の道路は封建時代の遺物であり、諸侯割據し互に障壁を設けて相防禦するの時代であつたから、交通の不便は寧ろ其の當時の國策であつたのである。斯かる道路が今日の文明時代に適合せざることとは言ふまでもない。故に今日道路問題は諸般の政策の中に於て最も改善を要する重大問題である、殊に最近の交通機關として自動車が発達し、自動車に依つて交通の利便を齎らすといふ時代に於ては何としても道路の改善をなさねばならぬことは是れ亦言ふまでもないのである。

舊時の道路が各藩割據の鎖國時代の遺物であつたのが、今日は國內交通の大機關として物資輸送

の重要なる使命を有する施設となつた時代に於ては其の根本方策を全然變へねばならぬのは勿論である。即ち道路なる觀念が全然變革を見ねばならぬ狀勢に立ち至つたのである。外國人が我國に來つて最も不快を感じることは我國の道路である、日本には道路なしとまで極言したる者すらあつた。故に道路問題は諸般の國策中最も重要視して之に意を致さねばならぬことは言ふまでもない。

而して是は單に美觀とか體裁とかいふに止まらず、國家富力の増加、國運發展の基礎をなすものであるから、道路問題は一面に於ては産業問題である、一面に於ては國民の生活問題である。之に對して國家若くは地方團體が相當の資金を支出し、以て其の改善を圖ることは急中の急務である。殊に況んや最近世界各國の狀勢を見ても道路の開發に意を注ぎ、以て死藏する物資を開發する政策を採るに考へて見ても益此の事の必要を感じるのである。

此の趣旨に依つて吾々同志は曩きに道路改良會なるものを起し、我國の道路の開發改善を目的とし、或は講演に或は講習に或は調査研究に全力を注ぎ、其の結果を政府並に地方團體の當局者に建議して以て道路の改善に貢獻せんとしたのである。今日道路が稍幾分かの改善を見、全國至る所に道路改良熱の起りたることは獨り我道路改良會のみの力だとは言はないが、此の氣分を鼓吹し、然かも其の實効を擧げたることに付ては吾々の努力も亦與つて尠なからざることを自信するのである。併し吾々の今日までの事業は未だ固より其の端緒に過ぎない。今後爲すべきことは益多いのであ

る。吾々は今後一段の奮勵を以て事に當らんことを期して居るのである。

昭和戊辰の年に曠古の御大典に臨み、其の盛儀を拜するに當り六十一年前の明治戊辰の往事を追懐し、此の間に於ける我帝國の進歩發達の如何に偉大なるかを喜ぶと同時に、吾々は此の隆昌なる昭和の御代に於て先輩諸公が此の六十一年間に苦心努力したる跡を追ひ、益力を致して國運の隆昌に貢獻せねばならぬことを痛感するのである。

曠古の御大典を萬民歡呼の裡に濟ませられ、茲に昭和四年の新年を迎ふるに當つて、吾々は一層の勇氣と決心を以て本會事業の發展に力を致し、以て國運の隆昌と國富の開發に寄與せんことを期せんとするのである。

◇ ×

× ◇